

キラリ☆中富小

所沢市立中富小学校 第10号 令和7年12月24日(水)発行



学校教育目標 「なかよく かしこく たくましく」

三つの約束

- あいさつ
- 整理整頓
- 時間を守る

児童数	1年生29名 2年生42名 3年生29名 5組 1名 全校児童数	4年生47名 5年生44名 6年生38名 6組 4名 234名
-----	--	---



「当たり前のこと」「一瞬のキラリ(小さな伸び、よさ)」の価値についてみんなでふりかえりましょう!

本校では「子どもがキラリ輝く笑顔あふれる元気な学校」づくりを目指し、教育活動を進めています。そのために、子供たちの心のエネルギーを満たし、3つのキラリ「わかつてキラリ」、「かかわってキラリ」、「汗ながしてキラリ」がたくさん見られるように子供たち一人一人のよさを認め励ます教育活動を行ってきました。



今日で2学期が終了し、どの子も1年間の3/4の課程を終えることができました。今日は子供たち一人一人に各担任の先生からこの2学期の成果や成長が記された通知表が手渡されました。どの子も様々な場面で活躍をし、力を伸ばしています。

しかし、通知表の評価や所見には、それぞれの子供たちの一面しか示されていません。むしろ、示されていないところの方がが多いのです。



学校生活の中では、3つのキラリ「わかつてキラリ」、「かかわってキラリ」、「汗ながしてキラリ」輝く瞬間がいたるところで見られています。

教室をまわると、授業の中で頷いていたり、課題を解決できて喜んでいたり、できなかったことが少しでもできるようになって、もう少しやってみようと挑戦していたり…、つぶらな瞳を輝かせて学習に取り組んでいる様子が見られます。

特に、本年度は学習の中で、ペアでの「わかっていること」の確認や3人組での学び合いの時間を昨年度以上に確保してきたこと、聴き手の指導をてきたこともあって、「自分の考えや思いを『わかつてもらえた』」という機会が増えています。

また、いろんな友達と進んで関わったりすることは苦手だったけれど、授業中は誰とでも同じように接して行動している子や誰とでも一緒に協力して学べる子、活動できる子も増えています。ですから、人の関わりを通して、自然と笑顔になれる子供が増えています。中には、以前からずっとできていたから、その子にとっては「当たり前」と思いがちですが、心も複雑に成長し、環境も変わっていく中でも、こういった行動がとれていることも、とれることが増えてきたことも、コミュニケーション能力の向上の結果であり、豊かな心が育まれてきている証です。



さらに、授業中できない課題でも、あきらめずに粘り強く解決に向けて取り組んでいる様子や朝清掃の時間に一拭き一拭き力を入れて、どこを拭けばいいかを考えて箋をはいたり、雑巾をかけたりしている子、クラスの問題などを解決するために一生懸命仲間と相談したり、楽しい活動を準備したりする子なども心や身体の汗をかいながら、自らの行動を調整する力、根気強さが育っていると思うのです。



子供たちは毎日6時間以上も木製の堅い椅子に腰掛け、学習活動に取り組んでいます。それだけでも大変なことです。毎日学校に来れば様々な環境の刺激があります。それが楽しい子もいるでしょうが、中にはその刺激が気になって苛立つたり、不安になったりする子も多くいます。コミュニケーションが苦手で、あまり友達と話したりできない子供たちにとっては、時には学び合いも含め一日の学校生活が心の負担だったりするかもしれません。

それでも、毎日、学校に行き学ぶ子供たち。そういう『当たり前』と思われてしまっているようなことも、実はとてもキラリ輝く行為であって、子供たちの笑顔輝く学校生活を送る基盤になっていることをみなさん伝えたいのです。



このように考えてみると、2学期の終わりにあたり、子供たちに「『当たり前のこと』でも、心を込めて、「~することを本当によく続けてきたね」「前よりも~ができるようになったね」と具体的な言葉で声をかけてあげてほしいのです。



こうやって、子供たちの当たり前のよさや小さな伸びを認め励まし、みんなで『子どもがキラリ輝く笑顔あふれる元気な学校』を創っていきましょう。



このような成果が出ているのも、学校応援団の方々をはじめとする日々の登下校の見守り、学校の環境整備や学習活動へ保護者・地域・学校関係者の皆様のご支援、ご協力があったからです。改めてお礼申し上げます。今年もお世話になりました。よいお年をお迎えください。



子供たちが自立するためにデジタル機器やゲームといかにつきあわせるか？

スマートフォンなどのSNSツールやテレビやオンラインでのデジタルゲームは、私たちの日常生活に欠かせないものになっています。一方で、WHO(世界保健機関)が、2019年に依存症の一つとして「ゲーム障害」を新たに加えたように、特に子どもたちに関してその使い方や関わり方への課題が年々大きくなっています。

今課題とされているのは、目や脳に与える影響、睡眠不足や昼夜逆転などの生活リズムが崩れる影響などが指摘されています。すでに生活の中に入っているものをやめる、禁止させるというのは難しいことです。いかに依存にならずにうまく共存できるかを考えていくことが必要なのかと思います。

長年、ゲーム依存に悩み苦しむ人たちを診ている国立病院機構久里浜医療センターの樋口院長は次の①～⑤のような家庭での予防対策を提案しています。

また、家庭でゲームのルールを作成する際のポイントは、「親子で話し合って決める」、「守れなかったときにどうするかを決めておく」のだそうです。

本校でもオンラインゲームを夜遅くまで友達とやっている子供たちがいることが報告されています。このようなオンラインゲームでは様々な課題が報告されています。主に「子ども自身の暴言」「仲間はずれなどのいじめや人間関係トラブル」「高額課金」「長時間プレイなどの依存問題」「知らない人とプレイすることでの個人情報漏洩や出会い系被害」などです。ゲーム自体にこのような状況が出てくるように仕掛けがされているのだそうです。それを理解した上で、うまくゲームとつきあえる年齢として、レコーディングと言われる年齢制限が示されています。一度、お子さんがどのようなゲームを行っているのかなども調べてみてください。一部のオンラインゲームでは、友達とつながってボイスチャットしながらチームプレイをするため、「長時間プレイなどの依存問題」にもつながりやすいと言われています。やめられなくなった小学生はその理由として「友だちがいるから、途中でやめたり抜けたりしづらい」などの理由を挙げているそうです。

ゲームをすることは悪いことだと言っているわけではありません。ゲームをやることで気分転換になる、コミュニケーション、空間を認知する力などが高まると言ったメリットもあるでしょう。

大切なことは、メリット、デメリットを正しく理解して、様々なデジタル機器が子供たちにとって適切な使い方になっているか見守り、共に考え、自分に合った使い方ができるようにしていくことではないでしょうか。子供たちが自立できるようにするためにデジタル機器とどうつきあい、向きあわせるかを考えていきましょう。

学校応援団(ボランティア)活動の中でキラリ

12月は様々な場面で、学校応援団の皆様や保護者、地域の皆様にご協力をいただきました。11日(木)には、寄贈して頂いた花の苗およそ200株の植え替え作業を園芸ボランティアさんに行っていただきました。この花は、卒業式で体育館に飾る予定です。大事に育てていきます。

また、17日(水)には、図書ボランティアさんの協力で、図書室の本の整理と窓ガラスの清掃、カーテンの洗濯を行っていただきました。おかげで、図書室が明るい雰囲気になりました。同日の5時間目には、6年生がアオハダ、ムラサキシキブ、ヤマコウバシの植樹を行い、ボランティアさんや保護者の方に植樹の様子を参観していただきました。

このように中富小学校の教育活動は、学校応援団様や、保護者・地域の皆様に支えられています。3学期もビオトープ活動やベルマーク集計、図書整理、園芸活動、読み聞かせなどを予定しております。ご興味がありましたら、見学だけでもかまいませんので、参加をお願いいたします。



冬休み中の学校の対応及び緊急時の連絡先について

冬季休業期間中の12月27日(土)～1月4日(日)には、教職員は学校に勤務しておりません。そのため、緊急に連絡が必要な場合(交通事故等)は、以下の学校携帯にお電話ください。勤務時間外もこちらへおかけください。

冬季休業中でも上記以外の日は職員が勤務しておりますので学校へご連絡ください。

学校携帯 | 080-4198-5389

※ ご家族ともども、自転車に乗る際には、ヘルメットを着用する習慣をつけていきましょう。

※ クロムブックのログイン(ミライシード、CBTタワーなどを含む)は12月26日(金)までに済ませましょう。

それ以降だと1月5日(月)まで職員による対応ができなくなります。ご対応をお願いいたします。

